

# Lightning

vol.26

## ニッポン旧車!

### VINTAGE AUTO



# 2



1970年代  
3000cc~4000cc  
1700cc~2000cc



# VINTAGE AUTO HOT IMPRESSION

1973 DATSUN FAIRLADY 240Z+MECHA Injection  
1977 NISSAN FAIRLADY Z+RB26DETT



## スーパーGTドライバー 服部尚貴が乗る! 語る!!

インディカーをドライブした経験を持ち  
スーパーGTで大活躍のレーサー  
服部選手が注目のヴィンテージカーを試乗した!



## 究極のL型改。 それとも大馬力RB26? 趣向の異なる2台のZ in 箱根



箱根にFB仕様を持ち込んだのは、ロッキーフォードの澤  
船さん。試乗前にクルマの仕様を興味深く聞く服部選手。

古いクルマだから走りはちょっと……。  
あきらめモードに入ってる絶版車オーナーも多いはず。  
しかし、この2台は違った。  
最新モデルだってぶち抜ける2台のZ改を徹底試乗!

driver/N.Hattori 服部尚貴 text/T.Ueno 上野達之 photo/A.Hirano 平野 陽  
取材協力/ロッキーフォード Phone0564-58-7080



フロントのリップはメーカー不明の非オリジナルだが個性的なデザインだ。



鈴鹿まで岡崎市から自走で駆けつけてくれたロッキオオートの高橋さん。雨の山道は、さすがにちょっと緊張したらしい。

内装はシートと追加メーターが主な変更点。ただし、実は見えないように補強もロールオーバーが入っている。

力仕様。つまりパワー追求型。この時代のし型がノーマルで130馬力(クロス)だから、実に3倍以上のパワーを持つ。

もちろん、これだけではまともに走れないので、駆動系、そして足回りもパワーに見合ったものに交換。ミッションはRB20用+強化クラッチ。サスはオリジナルの車高調で、ブッシュ関係はすべてピロポールとなっている。ブレーキ関係はR32GT-Rを流用した。

ボディにもスポット増しの補強。さらにはパイプがフロア付近、そしてBピラーに接続されるなど、ロールオーバーに見えませんが、しっかりとした補強が加えられている。イマダキのばかっ速仕様の中ではもかなりマジメに、そして本格的に作られた一台だ。



ダクト付きのボンネット、オリジナルのメッシュグリルなど、妙なパーツが中味の違いをさりげなく主張する。



変更点はオリジナルの車高調+フルピロポール。ブレーキ関係はR32GT-Rから移植している。



タコメーターはオートメーター製。Zの場合、純正の位置にこれがかいに入れられるのだ。



内装の裏面に補強パイプが入るなど、目立たないが、ロールオーバー防止に役立つ。もちろん、ロールオーバー防止はR32GT-Rから移植している。



高まって見えにくい、タービンはアベックスの53060×2。サイズ的にパワー追求というより、レスポンス重視のチョイスだろう。



ラジエターの前に鎮座するのが、分厚いコアのインタークーラー。グリルを通しても見えるのでさりげなくターボを主張もする。



左がブーストメーター、右がHKSのEVC。本来、Zには有り得ないものである。ブースト1.2で500馬力以上はかたいという。



エアクリナーからタービン、そしてインタークーラーを経由して、と複雑なパイピング。このあたりは流用できずワンオフだ。



標準エンジンかと思わせるほどキレイにスワップされたRB26。



## 強化されたボディにRB26DET載せ!

1977 NISSAN FAIRLADY Z+RB26DET



国産最強エンジンを30年前のクルマに移植。考えただけでもワクワクする。

外観はノーマルの240Z仕様で中味はR33GT-R。カッコイイのと速いのと理想の組み合わせ。



### Specifications

**エンジン**  
R33GT-Rエンジン  
ハイカム  
タービン (アベックス AX53060 2本)  
ワンオフインタークーラー  
ワンオフオイルクーラー  
フルチタンマフラー  
HKS・EVC  
HKS・Vプロ

**駆動系**  
ミッションRB20DET用  
クラッチ・ニスモカップパーミックス

**足回り**  
オリジナル車高調+フルピロ  
フロントR32GT-R 4ポットキャリパー  
ホイール ワタナベ8スポーク  
タイヤ F215/50R16 R245/45R16

**室内**  
ボディ各所補強板、スポット溶接増し  
室内ロールオーバー



ターボ特有のブローオフバルブの音を響かせながら走るロッケーZ。パワー有り過ぎた？

「俺のクルマって外で聞くと、あーゆー音なんだ。もう、GTチャンピオンに乗ってもらって感激。しびれ

ドルを握ってもらった。」  
 残念ながら、取材当日は小雨。でも、2台のZはナンバ付きたし、ガレージの中で鈍い殺しにされていくクルマでもない。悪条件だけど、それはそれ、というわけで小雨の降るなか、さっそく、服部選手にハンドルを握ってもらった。

NA派、それともターボ派？ そんな80年代的なマヌケな自動車雑誌の企画みたいな意図はありません。それぞれ方向は違うけれど、モダンなテクニクを使ってイジった2台のフェアレディZに、おなじみのスーパードライバー、服部尚貴選手に乗っていただき、率直な感想を聞こうというのが今回の狙いだ。

VINTAGE AUTO  
HOT IMPRESSION  
HOT COUNTRY DRIVE AT SUPER SPORTS JAPAN  
CLASSIC CAR SHOW 2017 EXPANDED

## レーシングドライバー 服部尚貴インプレッション

2台の紹介をしたところで、それでは、いよいよ服部選手に試乗をお願いしよう。しかし、この雨なんかかならないものか……。

### Column



めったにない機会に感涙の二人。服部選手も楽しかったみたい。旧車はいってことでバッチ。



重ステのクルマは久しぶりとのことで、いきなり旧車な部分を実感しながら走り出した服部選手。それでもいきなり乗って、相当な速さで走ってました。その姿と音のカッコいいこと。

